

# らいぶスクエア

## 他領域・他者とのつながりを意識した外国語活動

外国語活動  
3年B組担任  
中岡 正年



### 1 具体的なコミュニケーションの場の設定

もともと本学級は総合的な学習の時間にて、世界遺産の熊野本宮大社に行くことを予定していた。そこで、現地で出会う多くの外国人観光客とコミュニケーションを図る機会を設けることで、外国の方と話すにはどうすればよいかを自分の課題としてとらえるのではないかと考えた。また具体的な場面を示すことによって、子どもたちの外国語に対する興味や関心が高まるのではないかと考えた。そこで、現地の外国人観光客とコミュニケーションをとる一つの方法として、和歌山に来てくれてありがとうの思いを「ウェルカムカード」に込めて外国人観光客に渡すこととし単元を構成した。このようにコミュニケーションをとる相手・場面を明確にすることで、外国語で思いを伝える必然性が生まれ主体的に学ぶ一つのきっかけになると想定した。さらに、カード作りの際にも自分の思いを伝えることで自分の作成したいカードができあがるよう活動の展開を工夫し楽しみながら英単語や慣用句などコミュニケーションに必要な言葉を身につけられるように計画した。

### 2 単元名・単元計画

単元名： Welcome to Wakayama ! This is for you !

単元計画： (全6時間)

- 第1時 外国人観光客にウェルカムカードを送ることを確認し、気持ちを伝えるカードにはどのようなものがあるのかを知る。(日本や世界のカード等)
- 第2時 形を表す言葉や物を表す言葉について知る。
- 第3時 ウェルカムカードを作成する。カードの材料を集める。
- 第4時 ウェルカムカードを作成する。カードについて紹介し、友達のカードの感想を伝える。
- 第5時 外国の方にウェルカムカードを渡す。※総合的な学習の時間と連携して行う。
- 第6時 学習の振り返りを行う。

### 3 実践を振り返って

実践後のアンケートや感想文の中において、自分の作成したウェルカムカードを渡すことが大変楽しかったことなど、外国の方と実際に話をしてこれからは英語をもっと勉強してみたいと感じたなど、前向きな気持ちをもっている子どもが多くいることがわかった。

今回の実践において、他教科・他領域との関連性をもたせることや学習することの意義付けが子どもたちの主体的な活動に向かうために重要なことであることが改めて感じられた。特に外国語(英語)は子どもたちにとって身近な言語ではあるが、日常生活の中では活用しなくとも生活ができるので、具体的な場面の設定は大きな意味があったようである。さらに、今回の実践を通して、子どもたちは多くの外国人が和歌山にも来ていることを実感し、外国語を学ぶ意味を自身の体験から実感したようである。

自分の思いを伝えるには、インプットの時間や一定の単語や慣用句は必要であると考えているが、それを具体的にアウトプットする場面があることは重要であるため、今回の知見をもとに単元の設定や他教科・他領域との連携を今後さらに検討していきたいと考えている。



図1 外国人観光客にカードを渡す場面

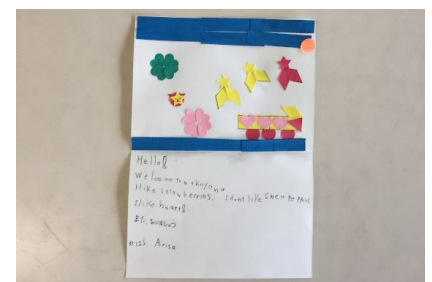


図2 子どもが作成したウェルカムカード